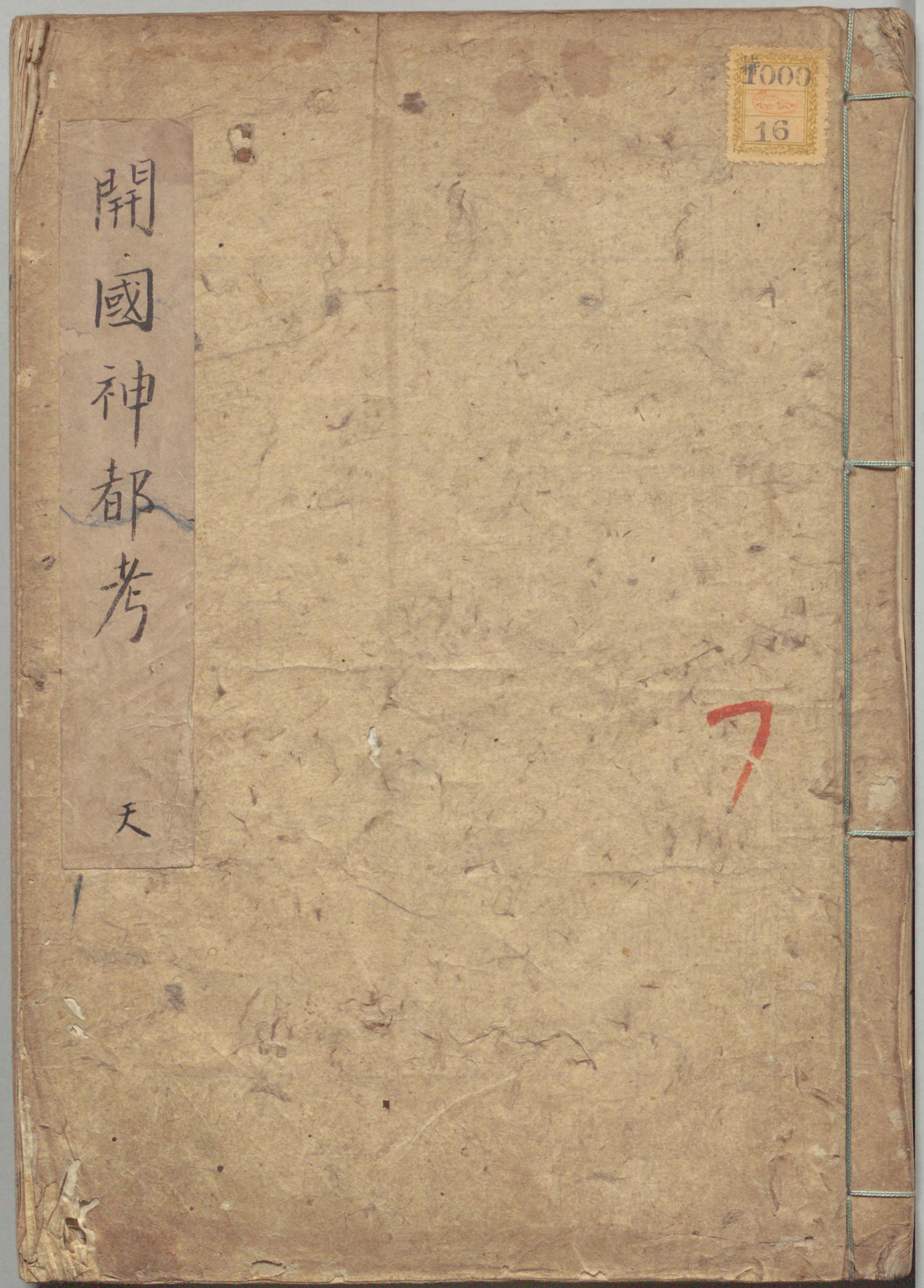


特1000
16

国立国会図書館　　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

国立国会図書館　　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

国立国会図書館　　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

国立国会図書館　　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

特1000
16

帝國圖書館藏

開國神都考卷之一

豐受大神宮權禰宜從四位下度會正身神主晁
曙井正英
川崎正世 同筆受
門人
宇野實兄

日本書紀第一卷（自二古天地一至二八神矣一）曰古天地未剖陰陽不分渾沌如雞子溟涬而含牙及其清陽者薄靡而爲天重濁者淹滯而爲地清妙之合摶易重濁之凝摶難故天先成地

龜田文庫

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

後定然後神聖生人其中焉
以上廣括春秋緯淮南子三五曆記文也
渾沌漢武正韻元氣未判也溟涬莊子司
馬註自然氣也朕與芽通謂萌芽也
前漢金日磾傳注師古曰萌牙者言始
有端緒若艸之始生也薄靡淮南子高
誘註若塵撲飛揚皃重去声輕之對也
淹滯淹淹留也左傳昭公十四年逾淹
滯晷久也合摶曲禮註摶以手圜之也

揆聚也揭涸也盡也天地者成形之名也天地
未有陰陽混然一如雞卵中黃白未
分各自然一氣之有發動之機爲是所以
爲論也及卵中繯有発動之機則白清者
運外黃濁者凝中亦可以譬天體渾圓層
層運旋以裹地如彈丸適天之最中者
其成易而先有陽也難而後者陰也天地
成形分爲人以氣化生爲夫天地之有形
體非自爲形體也人之以氣化非自以氣

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16
ガラス使用

化ノ也皆有ニ始使レ之ノ者曰何ノ曰神也故史律書
曰神生ニ於無ノ形ニ成ニ於有形ニ說レ之ノ者曰無
形為ニ大陽気天ノ地未レ形之時ト言神本在ニ太
虛之中ニ而無ノ形也天ノ地既ニ分レ二ノ儀ニ已ニ賀万
物之形成ニ於天ノ地之閒ニ神在ニ其中ニ所レ謂神
也者三ノ才之主ノ宰萬ノ物之司ノ命也有ニ聖人
則レ之而遂ニ君ノ於群ノ生詩曰文王小心翼ノ々
昭ニ事ニ上ノ帝ニ豈非ニ聖人ノ則レ之乎故自ニ人之所
食而保ニ生ノ命ノ者以至ニ宮ノ室器械之用ニ無レ非
其所ニ教ニ為而人之所ニ以為ニ人者亦無レ非ニ其所
導ノ為於ニ是乎神ノ而聖聖而神無ニ一毫ノ可
分ノ別故曰天ノ成ノ地ノ定然後神聖生ニ其中ニ
為是彼ノ邦論ニ天地人之始ノ義也雖ニ吾
邦ト亦何ノ異レ此乎然滄ノ海萬里地有ニ區ノ別
人不ニ相ノ通ニ彼ノ所レ謂聖者我ノ民莫ノ與ニ知ニ焉為哉
聖則有我
國常立尊以下數ノ萬而單ニ謂之ノ神ト者為以
神ノ道ノ設ニ教ノ之故也

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16
ガラス使用

故曰開闢之初洲壤浮漂譬猶游魚之浮
水上也于時天地之中生一物狀如葦牙
便化為神號國常立尊次國稚浮尊凡三神矣
豈弁尊
是ヨリ我邦太古ノ傳フル所ヲ挙テ彼邦開闢
ヲ論ヒル説ニ合スルヲ以テ故曰ノ二字ヲ下セリ釋
日本紀曰私記曰問或本開字ノ上ニ有天地ノ
二字如何答是非也後人所傳加也今按ニ
揚子寓見篇開闢以來及ヒ史ノ三皇本紀自

開闢至于獲麟等ノ謂アルトキハ天地ノ字無シ
テ通スレハ天曰開地曰闢易繫辭傳曰坤其
動也闢疏動則闢生萬物故其動也闢ト是
也洲爾雅釋水水中可ク居曰洲壤説文云柔ク
土也地ハ天ヨリ後ニ定ルヲ以テ水ノ干タ歸スル
所ナク横ノ流洲ノ濫シテ土モ亦堅カラス故ニ浮
漂ト云此浮ト漂ヘルモノハ一洲ノミニアラス水ノ
多キヲ以テ大ハ一洲ノ區々盡ク相通セス處々
ニ散在セルハ游魚ヲ以テ譬ヘタル也生一物舊

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

説ニ一箇ノ物ヲ生スト才モ一ルハ非也日本紀モ
ト漢文ヲ以テ書スルコトヲ以テ古來（本）ハ傍訓ナ
ク人讀ムコトヲカメンス紫式部ヲ日本紀ノ
局トイヘルカ如キ其能ク讀ルヲ以テノ故也釋
紀ニ問假名日本紀何人ノ作ル哉答師説元
慶記ニ云為レ讀ニ此書ヲ私ニ注ヲ出ス也コノ假名日
本紀アリテコソ注セヨリ人々彼漢文ヲ
モ能ク讀ムコトニハナリ又故ニ日本紀ヲ見ル者
ハ先ツ文字ヲ主トスヘシ是一箇ノ義ナリテハ

於漢文ニテ生物一ト書スヘシ一物ト八猶一種
ノ物ト云カ如シ天地開ル時島ナル人アルヿ如ニ性
理大全天地篇ニ所ノ論ル曰問大古之時人ノ物同ノ
生乎（ヤ）程子曰然リ純一ノ氣ハ為リ人ノ繁ノ氣為ル物ト乎（カ）
曰然リ其所ノ生（ル）也無（キ）一所ニ従ヒ受則チ氣之所ノ化（ル）乎
曰然リ問生第一箇之時如何ニ朱子曰以ス二氣
化（ス）二五之精合而成ル形ヲ釋家所謂之化生
如今物之化生（ル）者其多カ如シ乱ノ然（リ）上是（レ）其人
ノ人タルノ道ヲ知テスル五倫ノ別モナクシテ禽

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

獸艸木ニヒトシキ、猶之レヲ蒼人（アヲヒト）艸トモ名ヘカラ
サレハ其形ノ狀ヲ葬ノ字ノ所々ニ叢（ムラカ）リ生セ
ルニ取テ言之ヲナリ、葬ノ字ハ倭名抄ニ曰玉篇ニ云
亂（ラン）音亂 葬（ソウ）也、葬 音錢 和名 阿之豆久 藏之而（テ）生（ヲフ）也ト、是也
葬ハ陽發スル時、忽ニ蓊（ウツ）スル水艸（ミクサ）ナレハ天地ヒラ
ケテ直千ニ生セル人ノ、泥土ノイマタ乾カサルニ
住ルニ譬タル基、妙ト云ヘル使化（ツカヒナシ）爲神（カミト）トハ使
即ト訓スレトモ、字書ニ又順也ト註シテ因ノ順ノ
義アリ、然レハ同紀一書ニ如（シカ）葬（ハフリ）牙之抽出（ヌキイデ）也、
因（ヨリ）テ此（コヽ）有化生之神（カミ）ノ因（ヨリ）此（コヽ）ノ意ト相遠カラス彼
アシカヒノ如キ一種ノ物ヲ外ニセス此ニ因
テ即千尋千居位ニ昇リ玉フヲ云也、又周禮大
宗伯、註ニ能ノ生（スヲ）ニ非ノ類（ヤカラ）ヲ曰化（トナス）トアリテ彼葬牙ノ
如キ者ト非類ナル生知ノ聖徳ナルヲス化（トナス）ノ字ヲ云
一リ、天子ヲ神ト申シ奉ルコトハ令ノ詔書式
ニ明神（アキツカミト）御宇天皇（アメノシタシロシメススメラミカト）ト云ノ類也、國常立尊ハ即豐
受皇太神是也、尊ノ号ハ字義ノ如ニシテ萬々
世天子一系ニシテ我邦ノ傾（カタフ）カサルハ此大祖

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16
ガラス使用

ノ聖德ノ崇ク大ニシテ以テ也國ノ八土ノ義土
ヨリ生シテ小ナルヲ艸ト云ヒ日土ニ入ヲ暮ト
云ヒ土トナリ去ヲ朽ト云類見ツヘシ二八陽ノ
陰中ニ凝ルノ義石中ニ明ナル壁ヲ瓊ト云
土中ノ赤キヲ丹ト云土中ニ日ノ入終ルヲ西
ト云水中ニ火氣ノ入ヲ煮ト云是土ノ水中ニ
凝レルヲ國ト云水陸ヲ分ツトキハ陸八陽水ハ
陰也常トキハノ下略五十字一毋節二位ヲ
體トセル言ハ第五位ヲ用トシテ轉スルキノ

用コナル故ニトコトト云也鼻木コノ葉火ホノ穗
ノ類ノ如シトキハ八十繼經也凡ソ辭上ヲ畧ス
ルトキハ下ノ濁レルハ清メルハ濁ルコレヲ畧ス
濁略ノ清トヽ云テ次ツキノツヲ畧スレハキノ字ヲ清
ム也第四位ヲ體トセル言ハ第一位ヲ用トナ
シテ轉スヘノ用ハナル故ニトキハト云猶家イハ
人天アニノ原ノ類ノ如シ十繼ヲ經ルトハ
世ノ成ノ數ヲ舉テ不變ナルヲ云又トコトハ
ハ十繼ツキ經ヘ也立タシノ簡語古事記ノ

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

註ニ訓レ立ヲ玄ニ多々志ト万葉集多々ニ多世流君
皆古言也タハ卑ノ義地ノ卑ヲ田ト云低
ノナルヲ垂ト云下平ノタ皆同シタヽシハ卑
足ニテ立ハヒクキニタス也タヽノ切千此タ
濁リテ讀ムヘシ郎トキハノ畧法也尊ハ
御事ト云カ如シ尊ノ至ヲ以テ聖ノ躬ヲ直
ニサヽズシテ云ノ詞也國ノ狹ク趫豐ノ斟ノ淳及
ヒ下ニ出ル神ノ号悉ク字義ヲ以テ解スベカ
ラス只其訓ヲ假リタル萬葉集ノ例ノ如

キ古ノ俗也國ノ狹ハ國久也ニノ餘音ヒヲ含ム故
ニ畧濁ナシ國ノ久ハ國常ト云ニ近シ趫ハ
雷野ノ趫山雷ノツチニシテ太ノ神貴神大人ノ
類ト同ク尊メルノ詞也而シテ其中ニ優ノ劣次ノ
等アリ貴ハ至テ尊ノ称ツチハ外貴也トム
ノ切ツ貴ヨリ下レルヲ以テ外ト云也豐斟
淳ハ一書ニ載スル豐國主ノ文字アメレリ國
ト云ヘキヲ唐ソトチテムノ音ヲ生スル也ト
ヨハ豐饒ノ義トシヨルノ畧語トノ餘音ヲ

風俗ハ風俗ナリ

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

ノ倉トヨハ古事記掃部ハ王ノ神為ニ鈎海人之口大御饗之時御贄之白詞上ニ署和佐和途此ノ以下ノ字ノ音ヲ用ル控依騰而打竹之登遠遠登遠遠途此以下ノ字ノ音ヲ獻天之眞魚咋也伊勢物語ニナサニ白フハイツラ白雪ノエダモトヨヨニフルカトモ見ユ皆ニナフヲ云ノ古言也萬葉集第二秋山下部留妹奈用竹乃騰遠依子等青何方爾云云是ハナヨ竹ノ如クシナヒヨルト云ヿ也稲ノヨク

勝部トモ

キ竹ハヨクシナヒ竹ナリ

萬葉集第五山上憶良聊布私懐歌
阿我農斯能美多麻比氏ア
カノシハ我主也

實イ多メルハシナヒ重リテ相伏ユヱニ豊ノ字ノ訓トスル也我カ國ハ萬邦ニスグレテ膏腴ノ地ナレハヨク稲ノ出來ルユヱニ豊國トハ云ヘリ主本訓ノシ也五十字毋第五位ヲ體トスルモノハ第三位ヲ用トナシテ轉ス故ニスシトス云飛ー礫ヲハツブテ注ヲスクト云カ如シノシハ野ー知也曠ー野ヲワケテ知メルハ其地ノ主也コレヨリ守トナルヲモ總テ主トス云是ハ我邦ノ主ト申シ奉ル尊号也國帝立尊

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

ヨリ伊弉諾尊伊弉冉尊ニイタル迄ノ神号ハ
太神ノ御守ニアツテ始ノ祖ノ徳功ヲ追ノ論シ
テ、諡ヲ奉リ玉フナルヘシ、イカンソナレハ、文ノ物
法度制作ノ備レル心、此時ヨリ盛ナルハナケレ
ハ也、後人委ク神号ノ解セザレハ、其神ノ
功徳ヲウカヾフベカラス、学ノ有ル者モ心ヲヒソム
ヘシ、扨ニ以上ノ三神、世ノ次相承ケ玉フカ如シ
ト云ヘ共、父子直ニ相禪リ玉フニハアラジ、太神
ノ御世ヨリ此ノ尊ノ諡ヲ奉リ玉フニ祖先ノ
ウチニアリテ殊ニ有徳ノ三神ヲ世ノ始ニ立玉フ也、
數ニヲヨソテセルハ、説文ニ三ハ天ノ地ノ人之道也、謂ヒヌ
陽之一ヲ合陰之二ヲ次帝ニ重テ之ヲ其數ニ也ト云ヒ、老子
道徳経ニモ、三生ス萬物ヲト云ノ義ニ同シク、世ノ
最ノ初ナレハ陽數ノ三神ヲ立次ニ陰ノ數配ノ耦ノ
ハ神ヲ以テシ、陽ハ先タチ陰ハ後ルヽノ義ヲホノシ
玉フナルヘシ、度會、益弘神代巻諺解ニ曰國常
立ヨリ菅不合尊ニ至ルノ神ノ名ハ有徳ノ神ヲ
記スカ、此尊ニテ数万歳ノ御壽命ニテ神武

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

天皇ニ至リテ僅ニ百餘歳ノ壽ニマシテヲヤ菅
不合尊ハ周ノ代ノ末ニアメル彼邦ノ人ノ代
トニヘトモ百歳ニコエメルハ希也只我朝ノミ
シカランヤ伏義神農黄帝ト相次キタル如
クイヘド伏義ヨリ神農ニテ一万七千百八
十七年神農ヨリ黄帝ニテ五百十九年
伏義神農ノ明女ヲ嫡氏トリ女ヲ嫡氏ヨリ
無懐氏ニテ十五代ノミヲ誌シテ餘ハ記ス
コトナシ我朝モ亦カクノコトクナルヘシ今

按ニ彼ハ異代開國ノ聖ヲ數ヘ此ハ一系功ノ
徳ノ神ヲ挙ルノ異ノミ元ヨリ天地三神并ノ下
乾道獨化所以ニ成ニ此純男ノ十字アリ三神ニ女
神配合ヲ以テセサルヲ義ヲ解セルヨリ先ニ著
セル日本紀古訓ニ詳ナリ今畧之

一書曰天地初判一物在於虚中狀貌難言
其中自有化生之神號國常立尊亦曰
國底立尊次國狹槌尊亦曰國狹立尊次
豊國主尊亦曰豊組野尊亦曰豊香節野

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

尊亦曰浮經野豐買尊亦曰豐國野尊亦
曰豐齧野尊亦曰葉木國野尊亦曰見野
尊
虛中神代卷纂疏謂天地之閒也ムナシキ中ト
讀ヘシ其中ト狀貌難言物ノ中ナリ此書
國常立尊ヨリ豐組野尊ニ至テ三神號ノ異傳ヲニ名ツヽ拳ケ
異聞ヲ記シ豐香節野尊ヨリ見野尊ニ
至テ又再ヒ三神號ノ異傳ヲ二名ツヽ拳ケ
ルナリ而シテ其說國狹槌尊無シテ豐國
主尊第二ニアリ葉木國野尊ヲ合シテ三神
トセリ國底ハ別義アルニアラズ國常ノ訛
リ也訛レルヲモ不失シテコレヲ記シタル此一
書記者ノ厚意ナルヲ信スヘシ國狹立ハ國
久立ナリ李文國狹槌ノ義ヨリニサレルニ
似タリ細野ハ國野ノ訛リ野ハ主ノ器コレヲ
以テスヘノ本語ノシルコトヲ知ヘシ豐香節及
ヒ豐資尊ハ國常立ノ異名義ナリ豐香ハ
昂千止由気也五十字毋第四位ノ體第一位

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16
ガラス使用

ヲ用トナシテ轉スルヿ上ニ辨スル力如ノニシテ酒ヲ
サカ陶(ツク)竹ヲメカム(スゲ)シロ菅ヲスガ原影(カゲ)見(ミ)
ヲ鏡トユノ類下ニ詞ノツクトキハケノカニ轉
スルヿヲ知ヘシトヨ(ユ)ノ義ハ上已ニ辨之止由気ハ
豊受(ウケ)ト同シ皆假字ナリ凡ノ音ハイニ生シテ
ウニ終ルニヨリテ五十音上ニイヲ帯ヒ終ニ
ウニ含(フク)サルハナシ又コヽヲ以テイウノ二音ハ畧
スレ𪜈下ニ清濁ナシ又ウケトハ倭名鈔曰保食(ウケモチ)
神和名宇介毛知乃加美保ハ稲(ホ)ノ持也宇気者食(ケ)

之義也ウケヲ食ノ
ウル海ヲヽウヽ浚ノ義トスルハ水ノ義ニシテ
食ノ土之毛(ケ)メリ公羊傳宣十二年ニ錫之不毛之
地ヲ註ニ不毛者(ハ)磽确(カクカク)不生五穀ト云ニ同リ水ノ
毛ハ稲也郎倭名抄ニ稲(トウ)竈(カマド)字ヲ乃美太萬
ト訓セリ節(フシ)モ亦字ノ假ルノミニシテ生(フ)為也
フハ生スルノ義淺(アサ)茅生(チフ)蓬(ヨモギ)生(フ)園生(ソノフ)ノ生(フ)ノ
ヽハ十スノ義野ハノヽノ器語事ノ司トル
義トナル言心ハ豊稲(トヨカテ)ノ生スルコトヲ為ス敬

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16
ガラス使用

ヲ司ル ノ尊也、淳ウケト訓スヘシ、良千稲也、
経ハ生也、野ハ ノ主ノ
ニフモノ切ヒ此重テ詞、素盞嗚尊ノハ雲
タツ出雲ト云ルカ如シ、古ノ俗ノ雅言ヲ思フヘ
シ、國常立尊穀ノ食ヲ以テ民ノ生ヲ保ツ
ヲ教ヘ導キ玉ヒシヨリ、豊受太神トモ申、
又御饌津神トモ申シ、邦ヲ名テ豊國食ケ
國ト云、又是ヨリシテ世々ノ天子ノ尊號ニ
稲ノ詞ヲ以スルコト多シ、悉穂根、尊瓊々杵尊下出等

皆是也、下ニ出セル天津神籬ニ齋キテ祭之ヲニ
齋場ノ稲穂ヲ以スル、此太神ノ民ニ穀食ヲ
教ヘ玉フヲ穀スル也、豊國野、野ハリヒノ畧、遥
ハクニノ訛リ、野ハ又上ニ同シ、葉木國ハ衣
着國也、ハハ太古ニ在テ木ノ葉鳥羽ヲ衣ノ
服トナセシヨリ、機ノ杼ニ出ルモノ
ヲモハト云、呂服漢服俗ノイハユル羽ニ重
ナト徴トスヘシ、同紀下ニ出ル天神建
葉槌命ノ義モ同シ、萬國ノウチニハ隈ノ體

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16
ガラス使用

源君美
荒井新後ノ書ス

ノ風俗ナルモアリテ甚イヤシムヘシ我邦ノ如キハ此神ノ御世ニシテ衣服ノ制ノ出来レル是ヲホメテ服ヲ着ル國主ト称シ奉ル也白石源君美力東雅ニ引トコロ日本決択記ニ應神天皇ノ御宇ヨリ盛ンニ物縫ニキモノ着ルコト上下ヲ分タズ衣裳ヲ調フルコトハナリタル其先ニハ君臣ノ閙ニ用ユルバカリニテツギツギノイヤシキモノハ裸ナルモ多クアリケリトコレラノ説ノ如キモ古

言明ナラス此神名ノ義ノ没セルニ因リ白石ノ辨スル所モ又不知ヲカクニ似タリ木キト訓スヘシ播挙短爾ノ注後人ノ加筆ニタメカフベカラス五十字毋算二位ノ體算五位ヲ用トメ轉スルナレハキノコトナル義ニ於テソムカスト云ヘトモ杏是レ衣着ル國ノ心ヲ器シテノリヲ濁ナレハキト讀ノ穂カナルニシカス見野ハ御布也又ヲ器スヌハ陰陽相合スル義也水土相ノ混スルヲ淳ト云

経ハ糸ノ竪ニ
緯ハ糸ノ横ニ
陰陽相交ルヲ云

上下ノ睦相交ルヲ寐ト云水火相入ルヲ溫ト云
経緯相合シテ延メル物ヲ布ト云此ノ野ノ字
上ノ義例ニメガフガゴトシトイヘドモトヨリ
假借ノ文字何ノ拘ルヘケンヤ衣食ハ一日モカ
クベカラザルモノニシテ此三神ノ御世ヨリ出
来レル人皆神恩ノ深ク至レルヲ仰ガサラン
ヤ近来尾州人源ノ幸和ノ青アリ五部書説ノ
雜ヲ著シテ豐受ノ神ハ膳部ノ神ニテ貴
キ神ニアラズトテ古事記ノ天照太神ノ神

鏡ニ恩ノ兼ノ神ヲ添テ二柱ヲ五十鈴宮ニ齋ノ祀
スルト記シ次ニ豐受太神ヲ竝ヘ挙ルヲ其義
ヲ枉テコレガ説ヲ作リ其書ニナキ所ノ意ヲ
添テ皇孫尊ノ供奉ノ神トナス此見一ヲヒ
胸ノ臆ニ横リテ彼ノ三部ノ秘書及ヒ世記等
外宮ヲ國常立尊ト云ヘルヒカ説ニ抵ノ牾セ
ルヲ惡ミ祠官等其書ヲ僞作シテ内宮
ノ上ニ居ルノ謀ヲナストテ云ヘリ其人神學
ノ溫奥ヲ知リ内宮祠官ノ秘説ヲ聽ノト謂

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

ヲ自ノ員甚シトイヘ𪜈日本紀巻ヲ披テ郎ヲ國
常立ニ豊受ノ尊号アルヲ知ラス自ヲ
昧キヲ以テ國ノ史官ノ牒ニ其證ヲ獨五
部ノ秘記ノミ云所ト𪜈テコレヲ辨ル惑ヲ言ヲ
極テ外宮ノ神ヲ貶サントス然ル外宮ヲ
以テ内宮ヨリ先ツルヿハ延喜太神宮式ニ
凡ソ元日諸ノ禰宜内人等各奉拝ニ神宮ヲ郎ヲ
供ニ進白ノ散ノ御酒ヲ其白ノ散ハ国ヲ
厨ニ太神宮司率テ進ムヘシ詣テ諸宮ノ禰宜内人及神郎ノ司
等ヲ遥ニ拝諸宮ヲ先ツ拝ニ度會ノ宮ヲ次ニ
後賜宴ヲ三日早旦拝賀ス齋宮ヲ言ハ豊受
太神ハ開ノ國ノ始ノ祖ナルヲ以テ元日ニ先
ツ度會宮ヲ拝ス次ニ太神宮次ニ二宮
ノ諸宮ヲ拝スルト𪜈也幸和吏ニ為ニ之ヲ説
太神宮次ニ諸宮ノ次ヲ旧本ニ作ルニ𪜈ト言
テ字ヲ改メ先ヲ各ノ拝ニ太神宮ヲ次ニ遥ニ拝ス諸宮ヲ
其諸宮ハ先ツ度會宮次ニ太神宮ヲ次ニ諸宮也
トス彼既ニ式ノ文ヲ破リ自恣ニ字ヲ補フ賊意

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

利

内宮儀式帳ハアヤシミアリトキク

斯曲アゲテ云ヘカテス古書本ヨリ誤寫ノ
有アリ其徴アルトキハ正文モ可也今無ニ其
徴ニテ利本偽レリト云コレン親スルニ二宮
儀式帳ヲ以テセハ幸和カ説誰カコレヲ
信センヤ内宮儀式帳曰正月ノ例ヲ以朝日ノ
禰宜内人物忌等皆悉ク參ノ集ヘ南門ノ五
重ニ侍リ立太神拝奉次ニ荒祭拝奉次ニ御酒
殿拝奉然ノ郎白ス禰宜内人物忌等皆悉ク參ノ集ヘ神宮司ノ
人等直會酒被ケ給畢ル郎皆悉ク宮司ノ御厨

外宮儀式帳ハ真書神祇官ノ判ヲスヘタルカナルモノナリ

トマヽフレガシラノヤウナル音ナリ

參リ向朝庭拝奉ル郎モ大饗被給畢ル外宮儀
式帳曰正月ノ例ヲ以朝日ノ卯ノ時ノ禰宜内人
物忌等皆悉ク參ノ集ヘ神宮拝奉ル向南御門ノ外次ニ
高宮拝奉向ヒ遙ニ拝次ニ御酒殿拝奉然ノ郎白ス
散御酒供奉ル次ニ禰宜内人等直會酒被ケ
給畢ル郎皆悉ク御厨ニ參リ向ヒ郎ヲ大神宮司率テ
二所太神宮禰宜内人并ニ二箇ノ郡ノ司及ヒ
諸カ禰等ヲ二所太神宮拝奉リ次ニ朝庭拝
奉リ畢テ郎御厨ニ大饗給ヒ畢ル式ノ文ノ各奉

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

拝ニ神宮ヲトハ内宮ノ禰宜ハ奉拝太神宮次荒祭ノ外宮ノ禰宜ハ奉拝豊受太神宮次高宮ヲ云其後二宮ノ禰宜内人等參ノ向御厨太神宮司率之遥拝ス二所太神宮及別宮弐文ノ遥拝諸宮ヲトハ是ヲ云也モ乙彼カ説ニ従フテ次ヲ之ニ作リ諸宮ハ度會宮次太神宮之諸宮ナリト云ハ於御厨ハ太神宮ヲハ拝セザルヤ且ツ太神宮之諸宮ノミニシテ度會宮之諸宮ハ太神宮ト同ク拝セザルヤ皆文義ヲ不成ト云ヘシ内宮ノ荒祭外宮ノ高宮弐文既ニ相對ノ儀式帳ニ宮ノ禰宜荒祭高宮ヲ合拝畢テ御厨ニ參集スルナレハ御厨ニ於テ亦高宮ヲ遥拝セサルノ理ナシ次ヲ之ニ作ルトハ彼カ偽リナルコト分明也又同弐凡ソ二月祈年幣帛ハ朝使到ル日太神宮司引使者ヲ先ヲ參リ度會宮次太神宮奉獻幣帛並如常儀是豊受太神宮太祖タルヲ以テコレヲ先ニ

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

ニ玉フ、天照太神ノ御心ニ隨フ也、故ニ今猶奉
幣使常儀トシテ先ツ度會宮ニ參リ玉フ而シテ
幸和其説ニ窮シ所ノ羊ノ祭ハ社檜ノ神ニ關
ルヲ以テ外宮ヲ先トスル欤神衣祭ノトキハ一
向外宮ヘ幣使ヲ立ト云幸和此式文如
常儀ト云ヘルヲ見サルニヤ常儀トハ六月十二
月月次祭ヲ云也同式ニ曰六月月次祭十
二月准之右月十六日祭度會宮ニ十七日祭
太神宮ヲ云ヘル十六日平旦齋内親王參入度
會宮ニ云ヘル齋内親王還リ本座然ル後禰宜
乃チ著明衣太神宮司著當色並執太玉
弊ヲ祢宜ノ前次ニ宮司次ニ幣ノ雜物并馬單ノ
行陳列次ニ朝使進テ入外玉垣門ニ當内ノ玉
垣門ニ並皆跪ク先ツ使中臣申詔ノ次ニ宮司
宣祝詞ヲ云云使及宮司以下向ヒ賀宮
不尚再拜兩段拍手兩段退テ就齋殿
云ヘル十七日太神宮其儀同度會宮荒祭宮ノ同
又賀宮是齋内親王及朝使先ツ外宮ニ

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

參入シテ内宮ヲ後トシ玉ノ元日ノ拜外宮
ヲ先ニシ内宮ヲ次トスルノ儀ニ同シ且ツ多
賀宮ノ儀ヲ以テ荒祭宮ヲ拜スルヲ以テ上
ノ次ニ諸宮ト云ヘルハ内外二宮ノ諸宮ナル
コヲ知ヘシ其神衣祭ノ時ハ二向外宮ヘ幣
使ヲ發シ次ニ内宮ヘ發ス例祭ノ時ハ内外二宮ノ間何ヲ以テ外宮ヘ
衣祭ニ幣使アルコヲ不聞何ヲ以テ外宮ヘ
ノミ幣使ヲシテト云ヤ思フニ其人加此不

學奥ノ術ナルベカラサレヒ内宮祠官ノ説ヲ信
スル事甚キ故ニソノ式文ヲ撓ルコヲ自ラ覺
ガル欤秘記ノ辭モ加此牽強ノ説ヲシテハ
盡ノ解シ之ヲニ足ラス又ハ秘記ノ外古
書中ニモ外宮ヲ内宮ニ先タテ或ハ内宮ノ
尊ニ比フル文アレハ皆是外宮ノ祠官意ヲ巧ア
リテ書カヘ置タリト云モ其古ヲ昧外宮
方ニノミアル所タラハソノ疑ヲナストモ強
ザルヘシ天下ノ大ナル寫本印板ノ數ヲ在セ

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16
ガラス使用

心何ノ悉ノ改ノ書スヘケンヤ今已カ所ノ見アリ
テ具説ノ立ニト欲スルニ其ニタガヘル書ハ
皆偽ノ書誤ノ字トテモ云テコレヲ伴ケハタトヘハ捫
人廣ノ座ノ中ニテモノヲ密ニテ人ニナコレ
ガヌスニタルヲ證スレトモ我ハヌスニズ證
スル人某ハ目ノ聊ナリ某ハ口ノ吃セリ何ノ用
ルニ足ンヤト云ニ同彼古言ノ法體用ノ轉
ヲ知ラザルヲ以テ日本紀國常立ノ尊号
豊香ノ豊ノ受ナルコトヲワキマヘザルコソ幸

ナレモシ是ヲ知ラシメハ是亦外宮ノ祠官ノ
書カヘタルナリトテ云ン欤捧腹スヘシ又延
喜式ニ度會宮ノ御裝束ヲ載テ紫蓋紫
鵞呉錦ノ衣正中鏡ノ文ヲ記云黄地以青糸奉
小綾紫ノ衣同裳等皆天子服御物ヲ列
シ掛殿皇孫尊ノ御裝束ハ是ヨリ一等ヲ
減スルトキハ皇孫ノ供奉ノ神ニアラスシ
テ天津日嗣ノ上祖最貴ノ神國常立
尊ニ坐スヿ分明ナリ是ヲ以テ延喜儀式帳

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

延喜式等ニ、内宮ニ先ツ℡テ奈事奉仕、或ハ
先テ奉拝ノ儀アリテ、今ニ到ルニテ分卿
勅使例ノ幣及ヒ臨時勅使等ノ禮アレニ遵
フ℡奥ニ、夫レ度會ノ宮豊受皇太神ノ宮ハ常
ノ称也、單ニ外宮ト指テ、東南ノ御神ノ宮
ト云フハ、續日本紀神護景雲ノ詔ニ見
エ、特ニ指テ伊勢太神宮ト云ルハ百錬鈔
ニ出、兼濃元年外宮正遷宮ノ山口祭嘉
保元年ニ當レリ、百錬鈔ニ曰、嘉保元年十

皇字皇祇之

月廿一日、請卿於御前ニ定申造伊勢太神宮
之閑可有造内裏哉否ヤ事ト是也、格式
國史儀式帳、諸家ノ記錄毎ニ二所太神
宮ト℡称ニ、天仁三年五月廿五日、天永
元年七月廿七日ノ宣命ニ天照坐ス豊
受皇太神ト載テレタル、古ヨリ皆如此ニ
テ異議ナシ、又心ノ御柱ハ天ノ御柱ノ象也、天
ノ御柱ハ天位ヲ表スルヿ、下文ニ於テ明徴ア
リ、外宮ノ心ノ御柱朽損顛倒等由天臨時

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

奉幣使ヲ立テ祈リ申サルヽノ例毎擧ニ違アラサレハ大祖神ノ大廟ニ坐スヿ孰カ疑ヲ容レン哉和身在祠部ニ天非議ヲ貽シ件大廟祖宗ヲスルヿ宇宙関ノ大罪ト云ヒ彼カ所ヽ論ヲ見ルニ一ニ国史神籍ヲ見サル者ノ臾ノ根ノ言ヲ信シテ孰レカ正ヲ失スル所ハ金科玉條トシ五部ノ内宮祠官ノ著ス所ハ件ケテ偽ノ造トナス我何ノ故ナルヿヲ知ラス續日本紀高野天皇神ノ護景雲元年癸巳詔曰日本ノ國ハ大八洲國ヲ照シ給比治ヽ給布倭根ノ子天皇我御命良麻止勅布御命乎衆諸聞食止宣今年乃六月十六日申ノ時ニ東南之角ヨリ天甚奇久異尓濃岐雲七色相ヽ交リ天立登リ在リ此乎朕自ヲ見行リ之又侍ル諸人等モ芙見天恠備喜備郡郡在ル関ニ伊勢國ノ守従五位下阿倍朝臣東人等我奏久六月十七日尓度會郡乃等由氣

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

乃宮乃上ニ仁當リ天ニ五ツ色ノ瑞雲起リ覆天柱
依此天皮形乎書寫以進止奏利復蔭
陽寮モ七月十日ニ西北ノ角仁美異雲
立天在、同月二十三日仁東南角仁有
雲本朱未黄稍異五ツ色ヲ止奏セ利如此久
奇異雲乃顯シ在流所由乎令勘ヘ尓弐部
省等我奏久瑞ノ書ニ尓細ク勘ル尓是皇子景雲
尓在リ賞ニ令大瑞止奏世利然レ共朕念行久
如是久大仁貴久奇ク異尓在ル大瑞波聖

皇之御世尓至ル德尓感テ天地乃示シ現ハス
之賜物止祭モ常モ聞行須是豈敢テ朕カ
德伊天地乃御心乎令感動シ倍坐都流事
波無止奈モ念行須然モ此レ方大御神ノ宮
上ニ尓示顯シ給故尚是ヲ太神乃慈備示シ
給幣物奈梨是ヲ以テ改テ天平神護三年ヲ為
神護景雲元年ト止詔布是ヲ外宮ノ嘉瑞
ヲ以テ年号ヲ改メラル亦以テ其ノ神ノ
貴キヲ知ルヘシ然ルヲ神宮雜事記ニ曰

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

天平神護三年丙午七月七日自午時迄
于未時五色雲立天照坐望太
神宮鎮坐須臾宇治五十鈴河上乃宇
治山之峯頂仁懸レリ臾ト称宣内人等注
臭牀ヲ申スニ於宮司ニ臾ト
上神祇官隨ヲ臾ト宮司ニ奏ス仍テ神祇官陰陽
寮等臾ト申ヲ云奉ル為ニ公家ノ為ニ天下甚ダ最
嘉之瑞ト相也者臾ト依テ彼ノ嘉瑞之雲ニ可レ被
同ク元ル之由被下宣旨ヲ以同年八月廿日ヲ

改ニ神護慶雲元年ト丙午ノ年ト仲ノ午ト
申於二所太神宮ニ勅使中納言従三位
藤原卿令奉ラ二宮ニ種々ノ神寶等ヲ給ヒ不記
又称宣等叙正五位下ニ畢ヌ此ノ書外宮ニ才
イテ記スル所ニアラサル故ニ豐受宮ノ嘉瑞
ナルヲ五十鈴ノ宮ノコトナシテ其ノ權衡ヲ奪
ヘルニ似タリ然レトモ其時古ニシテ人心不澆薄ク
皇太神宮重ク御託宣俱我ノ祭奉仕之時
先可奉祭ニ豐受神宮ヲ也然後我ノ宮ノ祭事

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

可勤仕之也ノコトヲ載セテ大祖ノ外宮ヲ斯
スルノ意ナリ幸和カ所聞ノ内宮ノ説ト
云ハイカニソヤ
一書曰天地初判テ有倶生之神號國常
立尊次國狹槌尊又曰高天原ニ所生神名
曰天御中主尊次高皇産靈尊次神皇産
靈尊
纂疏曰男神二尊相並而出之ヲ謂倶生
倶生ノ字ハ論語皇侃義疏周有八士ノ

章ニ出説日本紀古訓ヲ詳ナリ舊説又曰ヲ一
書中ノ異説トス然トモ其文古事記ニ違フ
所ナウシテ上倶生ノ説古事記ニ有ルナリ
疑ラクハ一書曰ヲ誤テ又曰トナスニヨツテ擡
頭セスシテ上ニ接シタルナルヘシ高天原旧説
ニ三義アリト云非ナリ天ノ原ハ蒼天ヲ云ノ
詞ニシテ高天ノ原ハ神都ヲ云也高ハ称美ノ
詞蒼天ノ高キヲ高キトヨフトモ称美ノ
詞トナルヘカラス都ノ土地ノ平原ナルヲ

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16
ガラス使用

蒼天ノ高キニ比シテ、高ノ天ノ原ト尊ニ云ヘルナリ、中ノ臣ノ祓、及ヒ萬葉集等皆都ヲサスノ言メルヿ、其徴擧テ數フヘカラス、此高天原ハ國常立尊ノ都ヲサスナリ、先輩ノ説皆曰、國常立ノ常ノ立ノ者、天ツ日嗣ノ所自始也、天ノ御中ノ主ノ者、弘ク為ニ人ノ臣ノ祖也ト總テ一神ニ名ヲスヘシ、所謂高天原ハ實ニ正説トナス、ソコニ生ス神ト云ヒ下ニ天照太神ノ御世ニアタレル外ノ戚ノ神高皇産靈尊ヲ主ノ人ノ臣ノ祖タルヲ見ルヘシ、蓋シ國常立尊ト一體トスルモ理ニ坐スヲ、太初ノ君ヲ天ノ先ツ成ル象トリ、女神配合ヲ立テガルニ因テ也、固ヨリ婦ハ夫ノ惣ル所ナレハコレヲ一神トナスモ理ニ於テ戻ラサルヘシ、既ニ国常立尊ト一體タルニ因テ、御鎮座傳記等天御中主神ト記シテヲ、古事記ノ天神第一トスルニ同ク、

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

更ニ御鎮座本記ノコトキハ大海之中ニ有テ、
物浮形如ク萍ノ牙ノ其ノ中ニ神人化生ト云ヒ、下
ニ又葦原ノ中ツ國ト云ニ應ヒテ天御中主ノ
尊号ヲ用ヒ、中ノ字ヲ以テ黙荘ス言ノ魂
ノサキハフ国ノ文ノ辭ヲ尚ブヘシ專ラ天御
中主ト称スレハ、即チ國常立尊ニツラヌテ對
本紀一書ヲ國常立尊ノ号ノ義
言スレハ配體ノ神ナリ、コヽニ尊ノ字ヲ
ヲ考ルニ天ハ國常立尊ノ天ニシテ御中ハ

御宇ノ古言ナリ、中
天平寶字五年撰氏族志所之宣勘造
所ノ進本系帳ニ云高天原初而皇神之御
中ニ皇御孫之御中ニ執持伊賀志挌ヲ云ヒ以
テ證スヘシ、主ハ宰也其御中ニ臣職ノ
首ノ宰タルハ皇后ニアラスシテ誰ソヤ君臣
ハ則チ夫婦ノ位五倫ニ十上下尊卑アリテ
其五倫ノ初ニ夫婦ヲ叙ツルコトヲ思フヘ
シ高皇産靈尊ハ称美之辞德ヲ以テ

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16
ガラス使用

言ヲ皇ハ尊ヲ詞、猶ヽ曰ヵ御ト産霊倭名抄ニ無
須比ノ乃加美ヨレ御ノ外ノ戚ノ神ニシテ天御ノ女
栲幡千千姫ヲ吾勝尊ニ妻シタマフヲ以
テ、瓊々杵尊生レサセ玉ヒ皇統コヽニオイ
テ弥盛ンニナラセ玉フユエニ産霊ノ尊ノ号
アリ、此ノ神ヲコヽニカケ連子タルハ其系譜
ノ配ノ體ヨリ出玉フヲ見ハス
ノ国ノ常ノ立、尊ノ
也、詳ナルヲハ日本紀古訓ニ見タリ今略
之ヲ五部書説辨ニ曰、天御中主神ハ人ノ體ニ

ニテ高皇産霊ノ尊ノ父也豊受ノ神トハ
系ノ統甚タ異ナリト彼ノ神籍ノ古ノ傳ヲ不
知天御中主ヲ國常立尊ト別神トナシ
書ノ字面ヲ以テ高皇産霊ノ父トス尤
笑フヘシ高皇産霊尊ハ此紀ノ下文ニ
出テ天照太神ノ御世ヨリ皇孫ノトキニ
及玉フ神也モシ天御中主尊其父ニ坐サ
ハ伊弉諾尊ノ時ニ當リ玉フ神ナルヘシ
而シテ此紀太初三神ノ一書ニ之ヲ列ネ

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

古事記ハ錯簡多シト云ヘド完キ天神
第一ニ擧ゲタレハ幸和モ太初ノ神ナル
コト知ルヘシ又カクハ開闢ノ時ヨリ伊弉
諾尊ノ時ニテ天御中主長壽ニ坐ス神
トスル故彼レ自ラ倭姫命ノ長壽ヲ疑フテ
亜仁ノ皇女雄器ノ朝ニ及ヒ獨坐メ事ヲ
執玉フトムハ偽ニメ外宮ノ祠宮ノ秘計
第一ノ意巧也トスレド天御中主ニ
オイテハ其長壽ヲ疑ハザルハ何ソヤ

畢竟豊受ノ國常立尊タルコトヲ嫉ミ天
御中主ノ國常立尊ト別神トナシテ五
部ノ秘記ヲ支離セシメテ外宮ヲ貶サ
ントスル苛計ニヨレリ明者何ソ彼レニ
欺レンヤ倭姫命ノ壽數先輩モ云メ所ノ論ス
アリ幸和妻庸ノ人ノ知ル処ニアラス故ニ
コヽニオイテ不辨ス
次ニ有神埿土煮尊沙土煮尊次ニ有神大戸
之道尊太苫邊尊次ニ有神面足尊惶根尊

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16
ガラス使用

次有神伊弉諾尊伊弉冉尊八神矣
埏廣韻蒲鑑切同延深泥也ウビチ八潤泥ノ畧濁ヒチ八水ニヒタレルヲ云ニハ凝ノ義上ニ云ヘル國ノニノ如シスビチ八沙ヒチノ畧濁埏土煮ノ尊号ヲ奉レル也大ノ初ヨリ此神ノ時ニ至ルニテ水イニダ逆行シテ歸スル処ナク民乎原ヲ安ニセス、コヽニ至テ其水ヲ導キ其川ヲ濟シテ埏土初テ乾キ凝ル其盛ノ功ヲ以テ此尊ノ号アリ泥ノ乾ノハ至ツテ難久沙ノ乾クハ易シ男神ノ功多キヲアラハスガ為ニ泥ヒチ埏土煮ヲ先トス夏禹王ニ先ツテ我邦此二神ノ水ヲ治メ玉フアリ尊フヘシ大戸大苫大ハ称レ徳ノ人ルノ辞戸ハ止ノ義家也千ハ彦ヒコ劈ノ闢ヲ同シ之ノ餘音ヲ含ム故ニ畧清ナシ苫ハ和名抄ニ雅註ニ云苫和名度万編ニ菅茅ヲ

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16
ガラス使用

以覆屋也、トヽハ外閉也、閉ハヘタツルヲ云、
ヘハ姫也、ヒメノ切ヘノ器、汝上ニ神ノ功業ヲ以
テ平地居ヘクナリテ後此ニ神宮ヲ造ルコ
トヲ教ヘ玉ヒ、民為ニ業ヲ為スノ営ヲ為シ
家アツテ後苦オホフヘキヲ以テ男神ヲ先ク
テ女神ヲ後ニシテ此尊号ヲ分テル也、面ハ足
惶ノ根面ハ御ノ物也、オモノハ飯ヲ云、粮モ亦
同訓、足ハ集ノ韻ニ縦、玉ノ切、滿也、カシコハ炊也
キノ用コ、子ハ稲ノ上器、妻ハ夫ニ仕ル道ナル
ヲ以テ男ノ家ノ人ニ在テ中饋、貞ノ吉トアリテ食
ヲ作ツテ夫ニ奉ヘシ、和ノ訓飯ヲメシト云メ
シハ女ノ為也、之ヲ食スルヲ哀志ト云、ヲシハ
男為也、コヽヲ以テ女神ニカシコ子ノ尊号有
リ、民土ヲ安ンシ室ヲ営シテ此神復タ其ノ食
ヲタテヽス、此、政豊受太神ニ其基ヲナシ玉
ヒテ、コヽニ至テ全リ成レリ、書ノ禹貢、四東
東火ノ食ヲ彼ニアツテ我ヲ吏トス又我又彼ヲ
我トスレハ其称ノ呼ヲイトハス彼書ヲ以テ

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

我邦ノ太古ヲ徴スヘシカヽル稱ノ尊号
ニヨル時ハ豈ニ此ノ時我始テ火ヲ食セル歟然
ラハ夏禹ノ時ニ相遠カラザルヘシ終ニ伊
弉冉ノ尊ニ至ツテ火ノ神軻遇突智ヲ生
シ玉フモ民ノ火ヲ用ユルヿ此ニ濫觴シテ
ヨリ既ニ盛ナルニ及ヘハナリ伊弉諾舊
説ニ伊弉者猶ヽ言ニ去来ト和語也此二神
往来ニテ於二儀之閒一而為ニ造化之父母ト
云諸説皆コヽニ不レ出甚ダ笑フヘシ歸去来

二後ハ天地ナリ

頭ハ尻ハ恰モ渓人ノ
誉ハ軍營陳屋ナドノ
如キナリ

ヲカヘンナンイサトハ古ノ訓シタルイサハ催
スノ詞ニテ元ノ来ル義アリテ来ハ
即辞也何ノ往ノ来ノ義ナランヤ今按ニ伊弉
清音ニ讀ヘシ神武紀ニ曰吏遣頭ハ尻烏
召兄磯城ヲ烏到テ其誉而鳴之曰天ノ神ノ子
召シ汝ハ恰弉過イハ即語今ノ俗人
ノ催テサワト云ニ同シケレハコノ弉ハ濁音
ニアラス履中紀ニ曰去来穂別天皇注ニ去
来此云ニ伊弉ヨ是ハ歸去来ノイサ誓ノ約ノ

履中紀ニ見ユ

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

章去來真名井ト同ク今人ノ續猶浦音
ヲ以テセズ、コヽオイテ伊弉ノ二字清
音ナルヲヲ知ヘシ誘引ハイサヽ交也一ノサ
ノ器ノ洗雅言清濁ノ法甚タ嚴ナルヲ俗語ハ
濁音ヲ以テ呼ヲ多クテレハ此御神名モ誤リ
來レルナルヘシ和名鈔伊勢ノ国ノ郡名多氣
竹今ケノ字濁音ナルカ如シ伊弉ハ鼻千
伊勢也上ニ辨スルコトク五十字毋第四
位ノ體第一位ヲ用トナシテ轉入風カサ

ハヤ失ウサルノ類也ナギハ懐ノ器濁伊勢ノ
國ノ民又毋ノ如クニ隨ヒ奉ルヲ云字ハ
音ノ轉ヲ以テ假借又諾集韻韻會匿
谷切埵嚢入声倭名抄播磨國郡名美
嚢美奈是也十ニハ泣也又十ハ千妻ハ齋
也ノ義ニシテ君ニ相ナラフヲ云字ハ又ノ
形ニトル説ノ文ニ曰毋符命也諸侯進受於
王者ニ也象其札ハ長一尺短中有二編之
形ニ日本紀此下ノ一書伊弉諾尊ノ系

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16
ガラス使用

譜ヲ擧テ皇考ニ沫蕩尊ニシテ沫ヲ
葉集ニ或ハ安幡ト訓ス延喜神名式ニ
志摩国答志郡栗島坐伊射波神社ニ
座コノ栗島ハ郎今ノ伊雜宮ノ坐ス地ニテ
伊勢ト相接ス太古ハ伊勢ノ國ニ屬シテ伊
射波ハ伊勢ノ栗ノ義也コノ地ニ君トナリ
玉ヒテ沫蕩ノ尊ノ号アリ沫蕩ハ栗懐
也コレヲ以テ伊弉諾ノ義ヲ相ト發スヘシ
夫レ伊勢ト八風土記ノ説ニ伊勢津彦ノ名ニ

取テ國ニ号タル由ヲイヘレトモ古ノ書ノ例
神吾田津姫ノコトキ、ツノ詞ヲ以セル其住ノ
ル所ノ地名ヲ以テ神ヲ呼ナレハ伊勢ノ国
号ハ伊勢津彦ノ前ニアルナリ且ツ神風ノ
伊勢ト云説ノ如キハ風土記益疑フヘシ
神武紀曰冬十月癸巳朔天皇撃ニハ十ノ
梟師於國見丘破斬之ヲ僕ノ夜也天皇志
存必克乃為ニ御謠曰伽牟伽筮能伊齊
能于瀰能於貴與之珥云々此歌ヲ作リ玉

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16
ガラス使用

フ時大和國ヲスラヨリ先キ伊勢國ヲ天ノ日別命ニ授テ征セシメ玉フベカラス征ニ伊勢ヲ東ハ極メテ辛苦ノ年郎ニ位於橿原宮ノ後ニアルヘシ然ラハ神風ノ詞モ伊勢津彦ノ始ルニアラサルヤリ假令此ノ前伊勢津彦神風ヲ起シテ國ヲ奪ノ事アリトモ天皇位ニ其ヲ故事トシテ其詞ヲ用ヒ玉フヘキニアラス抑此國ハ伊弉諾尊以上ノ神都ニシテ

天照大神生レサセ玉フ処ナレハ太古ヨリ神風ノ伊勢トハ云ヘリ其證ハ垂仁紀ニ曰天照大神誨ニ倭姫命ニ曰是神風伊勢國則常世之浪重浪歸國也傍國可怜國也欲居ニ此國ニ故隨ニ太神教其祠立於伊勢國ニ因テ興齋宮于五十鈴ノ川上是謂儀ノ宮ト則天照太神始自天降之處也コレハ天照太神誕ノ地ナルヲ以テ御鎮坐ナリシヲ説ル也御降誕ノ地ナレハ

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

伊弉諾尊ノ都ナルヲ知ヘシ或問テ曰伊
弉諾ハ伊勢ノ懐ノ義タラハ國ノ號ハ伊弉諾ノ
尊ノ前ニアリ其名ルノ義如何ニ曰諾ノ尊ヨ
ノ國ニ出玉ヒ母ノ尊ハ紀伊ノ国ニ生レ玉フ日本
紀古訓ニ妻ヲ妹ト云ヒ夫ヲ兄ト云ナレハ
伊勢ノ国ト八皇子ノ國ト云ヘルコトニシテ仁
八例ノ發ノ語ナリ既ニ兄ノ國ノ名定リテ
後伊弉諾ノ尊ノ歸ヲ奉レルナリ國常立
尊ヨリ伊弉諾母ノ尊ニ至ルニテノ尊號ハ

數世ノ中聖ノ功ノ君ヲ擧テ天照太神ノ
御宇ヨリスルノ論也又問曰伊弉諾ノ尊
以上ノ神都ナルヲ其證アリヤ曰日本
紀此下文ニ曰二尊立於天浮橋之上共
計曰底下豈無國歟ト伊弉諾尊此伊
勢ニ君トシテ統ヲ嗣玉ヘル泥土煮ノ尊
ノ治水ノ功未洽ニヤ大八洲イマダ盡ク
相通セス以外ニ猶諸ノ國アルヘキヲ以テ知
リ玉フノミナル故ニ底下豈無國歟ノ言アリ四

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

方、國不相通ニシテ、開闢ヨリ皇統如此伊
弉諾、尊ニ及ヒ玉フナレハ是ヨリ以上ノ諸
神ノ都ハ、我カ伊弉諾ノ國ナル事明也天照
大神御降誕ノ土地ヲ以天壐仁天皇ノ御
宇還リテ御鎮座ナリ玉ヒ、豐受太神
皇都ノ地ナルヲ以テ、雄畧天皇ノ御宇
再ヒ御鎮座ナシ玉フ是所謂幽契ナ
ルモノ也、上ニ引トコロ天照太神ノ神託ニモ
神風伊勢國トノ玉フハ開闢ヨリノ神都

ナレハナリ、人皆仰キ欽ニサランヤ、

同第一巻曰、伊弉諾、尊伊弉冉、尊笑議曰、
吾已生大八洲國及山川艸木何不生天
下之主者歟於是共生日神號大日靈貴
一書云天照大神此子光華明彩照徹於六合之
内故二神喜曰吾息雖多未有若此靈異
之兒不宜久留此國自當早送于天而授
天上之事是時天地相去未遠故以天柱
擘於天上也、

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

諾冉ノ二尊伊勢ヨリ出玉ヒ淡路洲ヲ本城トシテ大日本豊秋津洲ヲ次第ニ吉備ノ子洲對馬壹岐嶋ニ至ルマテヲ治メ玉フ生ノ國ヲトハ新ニコレヲ獲ルヲ云生ノ山川艸木ヲトハ各〻始テ其神ヲ祭ヲ云何ソ不レ生ニ天下之主ヲトハ新ニ立ニ天子ヲト欲シ玉フヲ云太ノ神ノ至ノ德天ノ地萬ノ物ニ不レ被ト云フ無キ唯日以テ譬ヘ久至テ貴キ亦唯日次テ配スヘシ而シテ萬葉集ニ世々ノ天子ノ皇子ヲモ天照日ノ尊ノ御子ト云ニ擬ヒ生日ノ神ヲトハ新ニ東宮ニ立玉フヲ云太ノ神ノ降誕ハ伊勢ニ於テアルフ上既ニ垂仁紀ヲ引テ辨ズル之ヲ尚下ノ御鎮座ノ段ニ就テ見ルヘシ思フニ日讀尊モ亦然ル歟此下文ニ生月ノ神ヲトヽ云フアルモ始テ生ノ産シタマフニアラス新ニ太子ノ輔佐メラレシムルヲ云應神紀四十年春正月甲子ニ立テ菟道稚郎子ノ爲ニ嗣ト日ノ任ニ太山守命ニ掌

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

山川抹野ノ又大鷦鷯ノ尊ノ爲ニ太子輔ケシムル令
知ラス國ノ事ト是神世ノ軌ニ從ヒ玉フナリ
大日ハ稚日ニ對ヘ言ヒテ正午ニ至リ極ノ
位ニ昇リ玉フノ玄霎ハ度會ノ延佳カ曰女
ノ字義ニテ女體ノ神ト申スト義ヤ是
ニハナラヒアルヘキ事也ト終ニ度會ノ延經
ニ至テ男體考證一卷アリ三輪善
藏カ神道聽說物茂卿カ擬ニ大連カ撰文鴨ノ
祐之ノ如キ後ノ撰ノ神家皆其論アリ神武

紀道臣命ニ齎姫ノ号アルヘ亦可ニ併案ト
云ヘトモ日本紀古事記ハ元明元正女帝ノ
時ニ成ルヲ以テ推古女帝ノ時ノ舊事紀ニ
從テ女體トセル歟輒ク論スヘキニ非ス貴
ヲ訓スルニ御内也ニウノ切ムヘ軀撃ノ鞭ト
ナル同例也字ハ尊貴ノ義ヲ以テ塡ル
ノミ下ニ引崇神紀ニ見エタルコトク神ノ世
ヨリ天照太神和ノ大國魂ノ二タ柱ハ並ヘ祭於
天皇ノ大殿之内ニノ神ナルカ故ニ大日霎ノ貴

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

大己貴芙ニ御ー肉ト追ー祢ル奉ルナリ、三ー
女ー神道ー主貴モ同ー義ニシテ説別ニアリ、
古訓詳ニ之ヲ光華明彩ハ德ー運ノ發ー越スル
ナリ、簫ー疏ニ明、燭光彩ノ華ヲ廣韻ニ徹達也、
呂氏春秋ノ注ニ四ー方上ー下曰ヒ合ト日ニ配ス
ルカ故ニ以ヲ為ヲ辞也、吾息雖ヲ久ト八大ー八ー洲
ー川竹ー木ノ神、月讀尊、素ー盞鳴尊、皆
諸ー神ノ御ー子ナリ、其ー妙奇異ハ、賛ニ聖德ヲ也、
靈ノ字ー義神ノ之精ー明ナル者ヲ祢ス

靈魂ヲ、タマシヒト訓スルト同類ニシテ玉成ー心ヲ
魂ト云ヒ、神成ー心ー大ヲ靈ト云カムノ切ノ、
例ハ和名鈔、謚ヲ久万之祢、猪ー米所以享ル神也、神
可美稲ノ久ヲ子トナルカコトニ神之精ー
明ナルヲ借テ奇ー妙ノ義トスルナリ、此ノ國
ハ西ー國ヲ指ス、生ー大八洲ノ名ニアラス、同ー紀一書ニ生ー日ノ神ヲ玉ヲ
之櫃ー原ニアル可ニ併テ寀ス送ー於天ー八都ニ
上スナリ、天上之事ハ朝ー廷萬ー機之政ナ

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

り、天地相去リ未遠ト云ハ此時都ノ郡ノ封疆
イマダ不分ヲ云、然ル所以ハ延佳カイハ
ユル君臣上下ノワカチ未明ニテ相遠
カラザルヲ以ノ故ナリ、以天柱アメノミ
ハシラト云ヲモテト讀ヘシ、諸注家漢文
ヲ以テ書ニ日本紀ヲメルヲ不知故ニ以
瓊ノ矛ヲ為ノ揖ト等ノ解アリ、可笑ニ堪タリ、
天柱ハ天ノ位ヲ形容スル辞以天柱擎ニ於
天上ニトハ、位ニ昇テ奉ルヲ云ハシヲハ邊知

也、五十音第四位
用ハ古ノ歌ノ世ヲ海ヘタノヘタヘタヲ、今ハタ
トヽ云ニ同、又レノ用ヲ、一木ヲ立レハ
四ノ邊ニ知ル、義ナリ、帝位正シクシテ天
地不傾ハ、柱サヘテ屋ノ朴不壊ガコトク、
天子上ニ立王ヒテ萬ノ邦望レ之ヲハ高ノ柱ヲ
表シテ人知レ之ヲガコトシ、此ノ柱立テ君
臣上下王畿邦ノ国ノ分鞏然メリ、磐ノ取
盧島ニ伊弉ノ諾尊ノ國ノ城ヲ置テ為ニ國

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

中之柱ヨリ終ニ日ノ神ヲ立テ天ノ柱トシ玉フ、御思フヘシ、倭姫ノ世記ニ齋柱一ノ名、又天ノ御柱一ノ名、心ノ御柱、心ノ御柱トハ天地ノ中心ノ柱ヲ云、即チ天位ヲ表スルモノニシテ形ヲ以テ理ヲ傳フルナリ、故ニ百錬杪等ニ太神宮ノ心ノ御柱可ヲ淮ニ御正体否事ヲ諸卿定、申下ヲ載セ顛倒廢損ヲ朝廷ニ恐レ玉フ、尤モ故アリ、内外二宮心ノ御柱ヲ安ス、是亦豐受太神ノ天孫ノ大

祖タルノ證也、神ノ名式ニ大和國平群ノ郡龍田ニ坐ス天ノ御柱国御柱神社二座是天位ト国位トノ謂ニシテ龍田祭ノ祝詞ニ考ルニ神ノ名天乃御柱乃命国乃御柱乃命也、舊説天ノ御柱ヲ瓊矛也トスルハ、世記内宮風神ノ註ニ廣瀬龍田同神也ト云ニ因テ龍田ノ天ノ御柱ト同神ニシテ水神ノ瀧祭ト地ヲ接シテ鎮座ニ玉ヒテ具瀧祭ハ天

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

逆太刀逆鉾ヲ藏メリ、然ラハ其例ノ
コトク、龍田比古龍田比女風ノ神ニ竝ヒ
坐ス天ノ御柱國ノ御柱神モ瀧祭ト同ク
水ノ神ナルヘシ、天ノ御柱モ逆鉾ト齊キ
瓊矛ナルヘシトナリ、此ノ說神祇本源
ニ本ツクト云ヘトモ如此ニハ龍田同ノ神
トノミ云ヘキヲ、廣瀨龍田ト云ヒ又世ノ
記神名秘書ニ、天ノ逆太刀逆鉾ハ湯殿
ニ藏ムトシテ、瀧祭ト不言由此。コレヲ
觀レハ、天ノ御柱ヲ瓊矛ニ同シトスルモ
ノハ強ヒタリトス、故ニ略之。喜甫清
此書ノ所急ニアラス
在日本紀講述ノ抄ニ曰、龍田神ヲ天ノ御柱
國ノ御柱ト号スルヲ以テ、此ノ時ノ天ノ柱ヲ
祭トスルハ其神号ニ由テ誤ルナリ、或
浮屠氏ノ書ニ、日月ノ運轉皆風ノ力ニ
因ルト云、又ニ由テ此ノ日ノ輪ヲ
合セ說タルヲ以テノ誤欤、谷重遠カ

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16
ガラス使用

平群郡竜田嶺ニ此柱矣鳴呼深哉ト云ハ
其歎スルモノハ何事ソヤ云清在亦非
瓊ニ矛ニ卜云ハサレトモ此時天柱ヲ祭ニア
ラストスル也夫レ日神ノ皇都ハ同紀一
書ニ曰天照太神乃チ入ニ天石窟ニ而閉ニ磐戸ヲ
云々故會ニ八十ノ萬神於天高市ニ而問之
鴨ノ祐之大ニ八洲ノ記ニ云大和國高市郡日神
所都之地也ト是今按ニヤニトノ号
ヲ以大ニ八洲ニ被ラシムルモ是故也

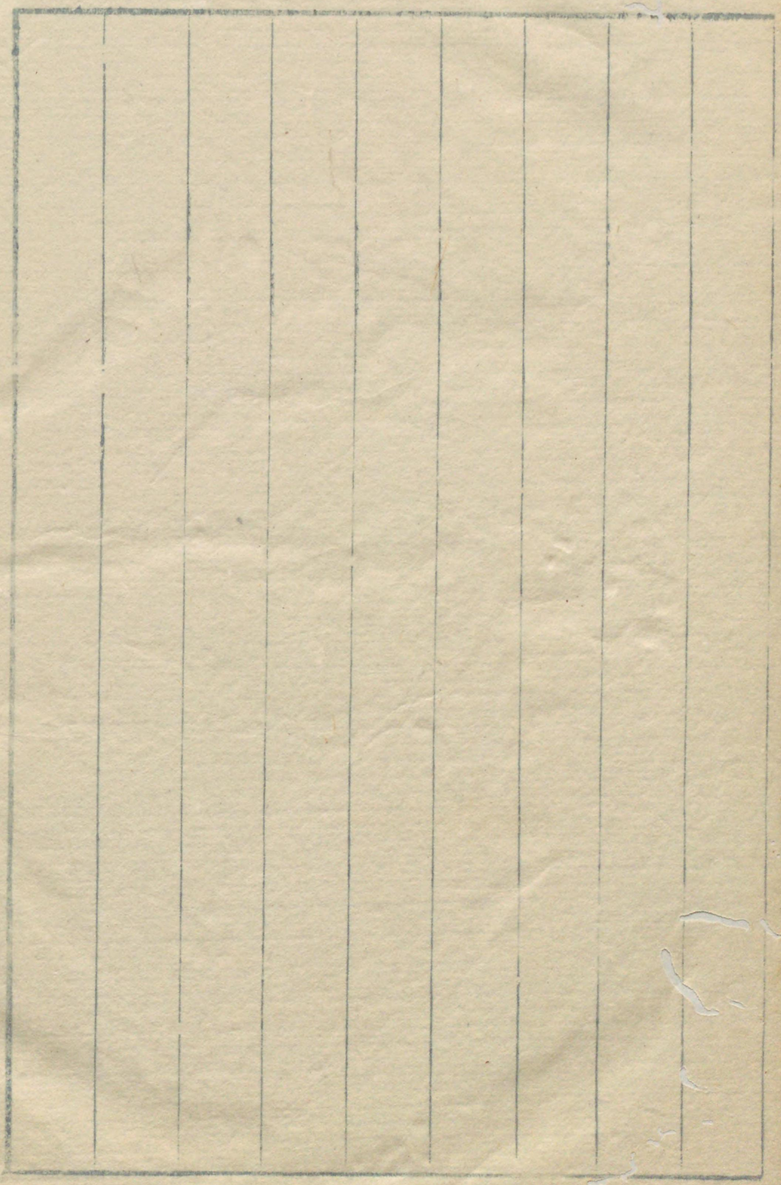
香山ノ名今ニ至ツテ存シ安河ノ邊ノ菅
原ニ轉セル武甕槌神ノ甕原ニ出玉
フナト可徴モノ不少

開國神都考巻之一終

国立国会図書館　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

特1000
16



国立国会図書館　　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用

国立国会図書館　　開国神都考 3巻　特1000-16

ガラス使用